

特定非営利活動法人まなひろ

■ 事業報告書 2020 年~~(案)~~■

2020 年度(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)



～人と人とのちがいを学ぶひろば～

人と人とのちがいがあることは、当然のこと。

お互いのちがいを認め合い、ともに生きる地域社会を目指して・・・



特定非営利活動法人

まなひろ

【目次(2020年度事業報告書)】

Ⅰ 運営に関する事項

(1) 会員

(2) 総会

(3) 理事会

(4) 他団体の会員として

Ⅱ 事業に関する事項

(1) 施設型学習支援事業

(2) 訪問型学習支援事業

(3) 情報教育学習支援事業

(4) 情報技術のサポート・支援事業

Ⅰ 運営に関する事項

下記に、運営に関する事項を記載いたします。

Ⅰ-Ⅰ 会員

2020年3月31日の会員数は、以下の通りです。

正会員（個人） …… 13名（学生正会員5名を含む）

正会員（団体） …… 0団体

賛助会員 …… 0名

また、2021年3月31日現在の会員数は、以下の通りです。

正会員（個人） …… 11名（学生正会員5名を含む）

正会員（団体） …… 0団体

賛助会員 …… 0名

Ⅰ-2 総会

●通常総会

日時 2020年9月19日（土） 11時15分から12時30分まで

会場 鶴見中央コミュニティハウス 会議室Ⅰ

参加者 10名（うち委任状出席者5名を含む）

1-3 理事会

●開催日

2020年：4月17日、7月23日

●議題

事業内容、方針等について 等

1-4 他団体の会員として

下記の団体に会員として参画しました。

- ・横浜市鶴見区社会福祉協議会
- ・認定 NPO 法人市民セクターよこはま

2 事業に関する事項

下記に事業に関する事項を記載いたします。

(1) 施設型学習支援

地域ケアプラザ等の施設における学習支援は、年間 16 回実施いたしました。2020 年度はコロナ禍の中での活動が困難な状況が続きましたので、施設での学習支援がほとんどできない状況でした。日時は不定期に、場所は鶴見中央地域ケアプラザ、生麦地域ケアプラザ、横浜市鶴見区社会福祉協議会等で実施いたしました。

2020年度は、施設における学習支援の代わりに、オンライン学習支援（Skype、Zoom、GoogleMeet 等）を開始し、年間52回実施いたしました。また、メールなどのアプリケーションを使った学習相談を年間 72 件受けました。

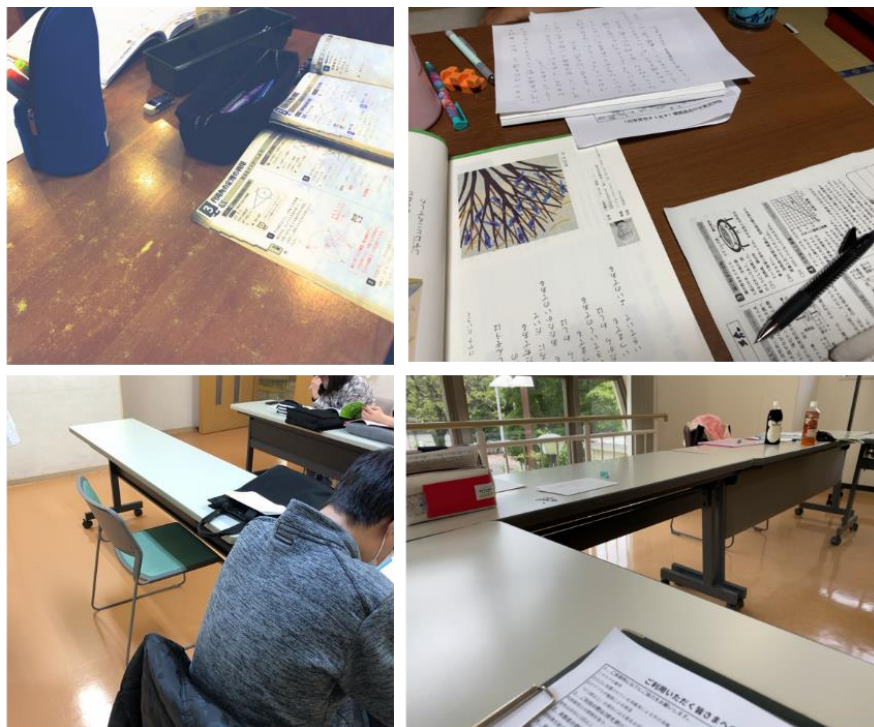
従業員人数は3名、受益対象延人数は168名です。

2020年度も高校受験対策を行い、無事進学いたしました。

緊急事態宣言中子どもたちは休校となり家の中に籠る生活が続き、学校が開始されると体力の低下が顕著にあり、精神的・肉体的に相当な負担があったと感じております。世の中の動きが止まる事態を今まで想定しておらず、今後の課題としては、そういった事態にも柔軟に対応できるように日頃より準備をしておく必要性を感じました。

2020年度は、オンラインを取り入れた活動を行いましたが、ICT 機器等の設備や通信機器がないご家庭とのやり取りが円滑にできなかったことが課題になりました。

そして、学習支援ボランティアの受け入れを、横浜市鶴見区社会福祉協議会のボランティアセンター、ボランティア募集サイト(activo)等を通して実施したところ、応募者数は、年間18名にのぼりました。しかし、実際に継続的な活動に結び付いた人は2名にとどまりました。特に、特定の教科学習を教えたいという希望を持った学生にとって、段階別・横断的な学習内容についてサポートすることに対してイメージがつかなかった課題やコロナ禍での対面による支援が困難な状況がありましたので、当法人の態勢について改善する必要があると感じております。また、学生ボランティアの中で、特別支援教育支援員(横浜市立学校)への活動に広げることができた人もおり、地域で必要な人材を関係機関につなげていくことに関して、今後も注力して参りたいと思います。



学習支援中の様子

まちづくり人づくりレポート

こどもたちへ学習支援を

NPO法人まなひろ 理事長 木村 裕之さん



NPO法人まなひろは、発達障害やその傾向があるこどもたちへの学習支援を行っています。代表の木村さんは、元はメディアカルエンジニア。2011年に介護福祉士や情報技術者の方とNPOを立ち上げ、まなひろを開設されました。汐田総合病院のすぐ近くに事務所があり、区内のケアプラザ数カ所で夜間に週4回の学習支援（オンライン・個別対応も含む）を行っています。現在、小学生から高校生までの約30人の児童

生徒に対し、大学生のボランティアさん数名と勉強を教えています。

NPOの学習支援は当事者たちから費用請求ができません。運営が厳しいため、木村さんは平日は区内の特別支援学級で仕事をされ、それからまなひろの授業で休む暇がない毎日です。

コロナ禍で対面授業が制限されてズームでの授業となっていますが、マスクを外せたり、体の弱い子たちも安心して授業を受けられる、というメリットもあると言います。

それでも木村さんは「本当に困っている人に情報が届いていない。必要な人がスムーズに制度を利用できるようにならない」と感じています。「授業に来たいのに、家庭の経済状況が厳しくなり、親御さんが

掛け持ちで仕事に行き、家事や兄弟の面倒をみざるを得なくて休んでしまっている子もいるんです」「学校の休校に加えて地域のイベントも皆無になり、意欲が低下し児童精神科にかかっている子もでています」と話されました。

木村さんは誠実でおだやかなお人柄で、こどもたちが安心して

できることがよくわかります。障害をかかえたこどもたちが自信をつけて、その子なりに生きてゆけるような世の中にしたいと、つくづく思いました。

取材・文 まちづくり委員会
松尾 ゆかり



木村さんは週4回の学習支援を行っています。

まなひろに関心のある方、
応援したい方は、
info@yuuei.yokohama
までご一報ください。

また、公益財団法人かながわ生き生き市民基金（新型コロナ対応 緊急応援助成（第4次））より、「学習支援・食糧提供事業」へ助成をいただきました。

・実施日時：2021 年 2 月 20 日（土）

・実施場所：横浜市鶴見中央地域ケアプラザ（地域ケアルーム）

食材は横浜市鶴見区東寺尾の沖縄ショップぷからす家さんより配達いただきました。

学習支援の受益対象延人数は3名、食糧支援の受益対象延世帯数は8世帯でした。

学習支援は中学校に在籍している生徒で、一般学級の生徒が2名、個別支援学級の生徒が1名でした。また、食糧支援を受けた世帯は、横浜市鶴見区・神奈川区に在住の方でした。今後も、できる限り支援方法を工夫して実施していきたいと思います。



食糧支援の内容

(2) 訪問型学習支援

訪問型学習支援は、年間90回実施いたしました。日時・場所は、各ご家庭との協議の上で設定しました。学習方法として、紙ベースの学びよりも iPad 等を使用した学習により学びが深くなったように感じました。

主な利用者は、ひとり親家庭の子、障がいを抱えている子、不登校で学び直しをしている人です。従業者人数は1名、受益対象者人数は172名です。

2020年度は、大学生からの依頼がありました。大学ではオンライン授業が実施されていた状況でしたが、レポートの作成やコロナ禍での孤立による心理的な悩みについて傾聴する支援も含めて実施いたしました。また、施設型学習支援を利用されていた人で、感染対策として自宅で学習をしたいというニーズがあり、緊急事態宣言中を除き、活動をすることができました。

(3) 情報教育学習支援

実 施 場 所 反町カフェぽらん等

実 施 回 数 6回

受益対象者人数 50名

対 象 者 誰でも(50代～80代中心)

『反町カフェぽらん』さんにて、スマートフォンレッスンを開催しました。

毎月必ず参加して下さる方々が多く、優しく分かりやすいとお声を頂いております。

毎回テーマを決めてレッスンを開催しているのですが、

「子ども(息子・娘)にスマホを持たされているけれど、使い方が分からない」

「アプリ(LINE)の使い方をもっと知りたい」

「SNS って何？」

「ネットショッピングがしたい」

とそれぞれ学びたいことも様々であり個別レッスンも行いました。

各種手続き等の ICT 機器利用が進んでいる現在、その利用も多世代へと広がり、年齢に関係なく生活必需品のひとつになっていると実感しています。

レッスン受講者の中には軽度の認知症の方もおり、毎回電話の受発信のみを練習する方もいらっしゃいましたが、法人内に介護福祉士の資格取得者がおり、専門職が対応する機会もありました。

皆様共通して、

「できなかったことができるようになった」

「分からなかったことが理解できるようになった」

と、学びを深めることができているよう見受けられます。

特に 80 代前後の方は

「子ども(息子・娘)に持たされたのはいいけれど、分からないから聞くと怒るのよ」

と、家族内で教える場面は困難であるという課題を抱えています。

気軽に分からないことを聞ける人がいるという場所は、シニアの方にとってとても重要であると感じました。

自分たちの得意分野が地域貢献につながり、そして皆様が喜んでいただける活動というのは、わたしたち自身のやりがいにもつながりました。

スマホレッスンは今後もっと必要性の高まる事業になるのではないかと感じております。

カフェの一角をお借りして、本年度よりハンドメイド商品の販売を始めました。

主にマスクやポーチを製作し、こちらも皆様からご好評を得ています。お店の方のご要望も取り入れながら商品の製作販売を行っています。

また、こちらの売り上げの一部は施設型学習支援事業の運営のために、役立てる予定でいます。



スマホ講座の様子（反町カフェぱらん）

(4) 情報技術のサポート・支援事業

2019年度から2020年度にわたり、汐田総合病院、川崎医療生活共同組合協同ふじさきクリニック、NPO法人フラットハート、社会福祉法人かれん等にフェイスシールドの配布を行いました。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令された頃、大阪大学中島特任教授の呼びかけにより立ち上げられたプロジェクトに参画し、コロナ感染拡大における医療現場等での問題解決を図るための取り組みを実施しました。

また、2020年度は一昨年より引き続き港北区内の地域コミュニティや新規に鶴見区内の会社の情報技術サポートを実施いたしました。コロナ禍で人の動きが減少している状況の中、ホームページ等をどのように運営し、活用していくと良いか議論をしながらサポート支援を実施しました。



タウンニュース 2020年4月23日号



Giving Mask Project



3Dプリンタでフェイスシールド制作プロジェクト



以上